

旭区社協インフォメーション

令和3年度事業報告

基本目標 01

安心して自分らしく生活ができる
ための包括的支援体制の充実

福祉の総合相談窓口として、地域住民から寄せられる相談や悩みごとを受け止め、必要な支援につなぎました。また、コロナ禍により影響を受けた生活困窮世帯へ生活福祉資金特例貸付や食料提供を通じた相談支援を行いました。

基本目標 02

多様な主体による支え合いの
地域づくりの推進

相談支援から見てきた課題や、一人ひとりの困りごとを解決する仕組みづくりを地域で展開するために、地区社協の活動支援、各種助成事業を行いました。また、第4期きらっとあさひプランを関係機関と策定・推進し、住民の福祉意識の醸成に取り組みしました。

基本目標 03

地域福祉保健の取組が広がる
仕掛けづくりの推進

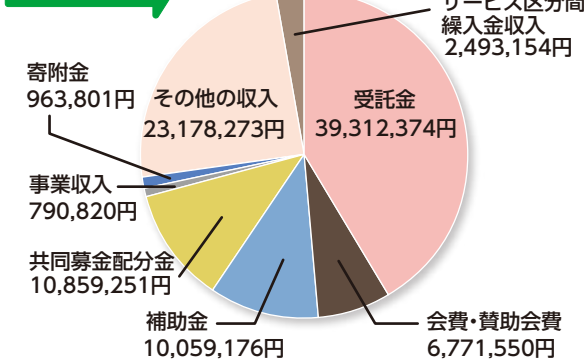
地域活動のリーダーとしての力を高めることを目的に、「旭地域福祉マイスター養成講座」の開催等に取り組みしました。また、民生委員・児童委員や地区社会福祉協議会等と連携し、生活にお困りの方へ食料等無料頒布会・相談会を実施しました。



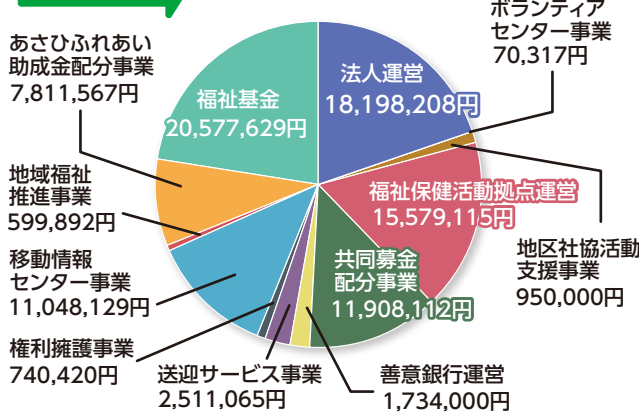
令和3年度 決算報告

当期収入合計	94,428,399円
当期支出合計	91,728,454円
前期末支払資金残高	18,631,931円
当期末支払資金残高	21,331,876円

収入の内訳



支出の内訳



令和3年度 共同募金報告



皆様から多くの募金を
いただきました。
今年も皆さまのご支援を
よろしくお願いいたします。
(募金は任意です。)

令和3年度共同募金寄付金総額

18,883,804円

赤い羽根募金.....13,103,686円

年末たすけあい募金.....5,780,118円

令和3年度に集まった募金は令和4年度に
使われます。

赤い羽根募金のうち4,718,051円が、
年末たすけあい募金の5,780,118円が区内
の福祉保健活動団体の活動費や旭区社会福祉協
議会の事業費等に活用されます。

「赤い羽根募金」

- あさひいきいき宣言
(旭区社協だより)の発行 240万円
- 地域福祉保健計画の研修実施 51万円
- あさひふれあい助成金 137万円
- きらっとあさひ福祉大会 42万円
など

「年末たすけあい募金」

- 地区社会福祉協議会
活動費助成金(19地区) 493万円
- 福祉団体助成金 58万円
- 食料支援、低所得者支援 26万円
など

善意銀行に寄付いただいた方々

(順不同・敬称略)

ありがとうございました。 令和4年1月1日～5月31日

- (金品寄付) 荻窪 邦昭/神奈川県年金受給者協会 旭分会 旅行部
前分会長 柳 富栄/株式会社 清水総合ビジネス/
小川 竹子/地区リハビリ教室連絡会/金子 晶子/
旭区更生保護女性会/あさひ茶花道協会/旭区舞踊協会/
匿名4件
- (物品寄付) 神奈川県理容生活衛生同業組合旭支部



善意銀行とは、皆様からの善意の寄付金品をお預かりし、
必要なところ、または希望された区内福祉施設や当事者
団体、地域福祉活動団体などへ配分し、皆様の善意を広げ
ていく事業のことです。

発行 社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-6-35
TEL:045-392-1123 FAX:045-392-0222
<https://www.palletasahi.jp/> 旭区社協

●アクセス●
相鉄線「鶴ヶ峰駅」
北口より徒歩8分



旭区社協だより No. 110

あさひ いきいき宣言

共に支えられ 生きていく



この広報紙は、「赤い羽根」共同募金の
配分金で発行しています。

<https://www.palletasahi.jp/>

旭区社協

お互いに気にかけてあう関係を広げる

みんなの居場所

「買い物に行くのが大変」、「最近誰かと話をしていない」、「仕事と子育ての両立が大変」

そんな誰かの悩みは、明日は自分の悩みかもしれません。

誰もが参加できる居場所や交流・生活支援の場から、お互いさまの気持ちで声をかけ合い、

「ちょっと気になる」、「ちょっと心配」という方をそっと気にかける、

そんな活動をご紹介します。



旭区社協の
Twitter はじめました!
<http://twitter.com/asasha1123>



アカウント名は 横浜市旭区社会福祉協議会

旭区社協では令和3年10月1日よりTwitterを開始
しました。各職員が身近な話題や福祉に関する情報
などをつぶやいていますので、ぜひフォローしてください!





お互いに気にかける関係を広げるみんなの居場所～広がる「旭区 ご近助ほっこり活動※」～

地域共生社会の実現のためには、地域の中でのゆるやかなつながりを持つことが大切です。今回はゆるやかなつながりのきっかけとして、誰もが気軽に参加できる居場所や交流・生活支援の場から「お互いに気にかける関係づくり」の活動をご紹介します。

三世代交流を目的とした居場所づくり

笹野台地区社会福祉協議会

「カレーハウス笹野台」

活動日 毎月第4金曜日 17:00～19:00

場所 笹野台会館

笹野台地区社会福祉協議会では令和2年10月より地域住民を対象に三世代で交流できる場として「カレーハウス笹野台」を始めました。

新型コロナウイルス感染拡大のため中止となることもありましたが、開催できた月には「待っていました」と喜んでくれる方も多く、回を重ねるごとに参加者が増えていきます。

受付でお互い「元気？」と声をかけあいます。



立ち上げから関わっている同地区社協の津久井優子事務局長は「最近では100食程出ます。地域に定着してきました。『今日はあの人來なかったね』、『今日も元気だったね』とか、『小学生だった子が中学生になって来た』など話題になり、地域のゆるやかな見守りになっていて、カレーハウスを始めて本当によかったと思っています」と話します。実際に相談機関である地域ケアプラザへつながったこともあるようです。

幼児を連れた家族や中学生・高校生、高齢者の方々が来場していて、あちこちでスタッフの方と親しくお話をしながら過ごされる姿が印象的でした。



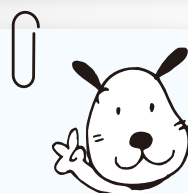
おいしいからおかわりしちゃう！



前は足りなくなったので今回は多く作りました。



会館前の黄色いのぼり旗が目印



※ 旭区 ご近助ほっこり活動とは
普段の暮らしの中で、無理なく、お互いさまの気持ちを大切にしながら進める見守り活動です。

詳しくはこちら→



移動販売を通じた居場所づくり

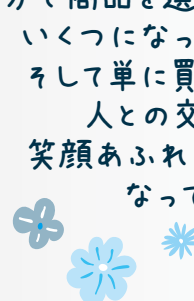
旭北地区では令和4年2月から、「イオンフードスタイル鴨居店」による移動販売が7か所で開始されました。地区内は山坂が多く、「買い物に行くことができなかった」、「買い物したものを持ち帰るのが大変になった」という高齢者の声が寄せられていました。

高齢者の方々も、すぐ近くに来てくれる移動販売であれば利用が可能になり、利用者の中には、「いつもは宅配を利用していたけれど、6年ぶりにお買い物にきました」と話す方もいました。

「久しぶり！元気だった？」
そんな会話が弾みます



自分で商品を選ぶ買い物の楽しさは、いくつになっても変わりません。そして単に買い物だけでなく、人との交流が広がり、笑顔あふれるにぎやかな場になっていました。



買い物だけでなく、おしゃべりも楽しみのひとつです



会場のひとつである大原南公園のある、大原南自治会長の西山秀介さんは、「移動販売に来る方たちには、自然とおしゃべりの輪ができています。『今日はあの人来ていない』等の気づきが見守りにもなると感じています。今後は、利用者の皆さんから日常生活の中での困りごとをお聞きし、地域としてできることを考えていきたいです」と話します。

移動販売が、誰もが気軽に交流できる居場所となり、お互いに気にかける関係性が広がっています。

大原南自治会長
西山秀介さん

